図書館だより

LIBRARY INFORMATION

ゆっくり本を楽しむ

落ち葉が風に舞い、日脚も短くなって寒さが身に染みる季節となりました。

11月23日は、令和では1年の最後の祝日である「勤労感謝の日」です。国民の祝日に関する法律には「勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう」と書かれています。仕事の成果を喜び、農作物の収穫を祝い、日々の頑張りをお互いに感謝し合う日といえるでしょう。時代が進むにつれて、さまざまな仕事が生まれて、消えていきました。今回は仕事に関する本を紹介します。

今月のおススメ

「イラストで見る昭和の消えた仕事図鑑」
澤宮　優　文
平野　恵理子　イラスト

「お仕事図鑑300」
16歳の仕事塾　監修

イラストで見る昭和の消えた仕事図鑑

紙芝居屋やエレベーターガール、広告板を体の前後に掛けて街頭で宣伝を行うサンドイッチマンなど、今ではほとんど見られなくなった職業115種を、労働時間や収入など、さまざまな情報まで網羅し、イラスト付きで紹介しています。懐かしく思う仕事から、「こんな仕事もあったのか」と思うものまで、さまざまな仕事が掲載されています。

原書房

お仕事図鑑300

約300からなる仕事を自分の好みから探せる仕事図鑑です。YouTuberなどの最近の職業から、警察官やプロスポーツ選手など、子どもに人気の職業が掲載され、仕事の見つけ方や仕事内容、勤務時間、給料の目安、休日などのデータ、その職に就くために必要な資格、免許、進路の例が紹介されています。それぞれの職に就いている10人の先輩のインタビューを読めば、仕事に対する理解が深まります。

新星出版社

■休館日：月曜日（㊗の場合は翌日）、図書整理日、特別整理期間、年末年始
◎お話会：12月11日㊏午前10時半から

図書館ホームページでは、利用案内や図書検索など図書館の情報を掲載しています▶
問 図書館 ☎029-897-0647

◎お話会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる場合があります。

12月 図書館カレンダー

2021年　December

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6■	7	8	9	10	11◎
12	13■	14	15	16	17	18
19	20■	21	22	23	24	25
26	27■	28■	29■	30■	31■	

あじさい土曜名画座

天使のいる図書館

【上映時間：108分】

▶日時 12月4日㊏午後2時／午後1時半受付・開場
▶定員　先着20人
▶場所　あじさい館［視聴覚室］
▶料金　100円
問 霞ヶ浦中地区公民館 ☎029-897-0564
※**鑑賞の注意点**／マスクは必ず着用してください。

【出演】小芝風花、横浜流星
【ストーリー】
奈良県葛城地域を舞台に、図書館に勤める合理的な新人司書が、ある老婦人との出会いによって成長していく姿を描く。小芝風花や横浜流星、香川京子らが出演したハートウォーミングなストーリー。

あじさい館 ホール展示 作品紹介

12月 作品展示

◆KSCなかよしスポーツクラブ

▶期間 11月30日㊋～12月26日㊐

あじさい館では、市内の文化団体などが作成した絵画や写真、陶芸、工芸品の芸術作品などを月替わりで展示しています。ぜひ、ご覧ください。　問 生涯学習課 ☎029-897-0564

歴史にふれる　理想郷とよばれた「常陸国」

▲常陸国風土記

■風土記は昔の行政文書

風土記は、約1300年前の奈良時代に編さんされた地誌です。713年に元明天皇が当時存在した約60カ国に命じ、土地の産物や動植物、鉱物、土地の豊かさ、地名の由来、地域の伝説や変わった出来事などを報告させました。

■現存する5カ国分の1つ「常陸国」

現在まで伝わる風土記は、常陸・播磨・出雲・肥前・豊後だけです。このうち出雲国のみが完全な形で、他4カ国は部分的に残っている状態です。

東日本で唯一現存している常陸国風土記の記述は、四六駢儷体（四字と六字からなる対句を多用する華麗な文体）で歌や物語性に富み、読み物として楽しめる文章が特徴です。

■理想郷と呼ばれた常陸国

常陸国は4等級に分けられたうち最上級の「大国」とされ、「常世国」（理想郷）として次のように紹介されています。

「常陸国は土地が広く肥沃で開けた良い国である。海の幸と山の幸に恵まれて、人々は心安らかに暮らしている。畑を耕し、糸を紡げば、たちまち富を得ることができる。塩を作り、魚を取り、桑や麻を栽培するのに適した土地柄で自然の恵みが豊かなところである。まさに常世の国とはこの地のことではないだろうか」

このように約1300年前の人々が理想郷として紹介した茨城県は、山・海・川の産物に恵まれていたことが風土記の記述からも分かります。それは現代でも同じです。全国的に見ても茨城県は農業人口が多く、さまざまな野菜・果物で生産数や出荷数は日本一になっています。

霞ヶ浦は、かつて「流海」といわれる海水が逆流する内海であり、海苔や魚介類が取れ、製塩が行われていたことなどが記されています。

▲佐我の流海

歴史博物館では、当時の霞ヶ浦沿岸の歴史についても知ることができます。約1300年前の暮らしや文化に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

問 歴史博物館 ☎029-896-0017

文芸ひろば　投稿作品

千代田俳句同好会
栗御飯炊いて待ち人ある暮らし　萩原初枝
夕映えの丘なり松は色変へず　大塚隼人
小鳥来る蛇口の低き幼稚園　飯沼礼子
まだ母の味に及ばぬ根深汁　福田妙子
時の間や静かに聴きし秋時雨　今井守

紫陽花俳句会
ひとしきりなびく夜風に花芒　飯田功
菊の香にほっと一息散歩道　久保庭悦子
何処へと筑波越えたる鷹柱　田能幸雄
口程に動かぬ手足百舌日和　萩原とし子

出島短歌会
数日を話すことなく過ぎゆけば猫に語りぬ今日の出来事　薬師寺玲子
「上がらっせ」御国訛りのひびきいる真冬の部屋のあたたかきこと　岡田恭子
朝夕に涼しさつれて秋の風食べ頃の柿カラスに盗らる　名倉靚子
この手指動くよろこび詠みしわれパラリンピックの競泳見ている　仲谷香代子

投稿作品
秋日和富士見塚に登り見渡すと北にそびえる筑波東に果しなき湖を一望し絶景なり　斉藤勝広
秋待たで去りゆく宰相忘れまいコロナのワクチン五輪の感動　中島良平
好感度最下位なれど吾が郷土されどこよなき生れし故里　沽野はつ子
因と果を生老病死経て学ぶ慈悲と慈愛が脳裏を過る　近藤善康
細やかに山茶花活けし玄関に和める朝の一刻過ぎぬ　石塚清
宝石か夜空きらめく星々よ夢希望を流れ星に我　横井正子
運動に勝る我が身に薬なし残る筋肉皮残様　磯山徳治
鳥去りてあとは暮れ行く刈田かな　竹村啓子
筑波路やパラグライダー峰紅葉　関和代
野分あと筑波ふたやま背筋のぶ　兼西清治
杖先で子らを見守るリハの行　中村耕一
新茶手にお国訛りの割烹着　いいだいさを

投稿作品（俳句・短歌・川柳）募集：12月3日㊎までに秘書広報課（〒315-8512 上土田461／千代田庁舎）
※応募多数の場合は掲載されない場合がありますのでご了承ください。音声読み上げに対応するため、漢字にはふりがなの記載をお願いします。（内容を確認する場合がありますので、電話番号もご記載ください。）